

在宅医療のオンライン診療導入モデル事業について (令和5年度新規)

新潟市保健衛生部地域医療推進課

事業概要

■事業目的・概要

将来的な医療ニーズの増加を見据えた在宅医療体制を強化するため、訪問診療にオンライン診療を導入するモデル事業を実施する。

■事業内容

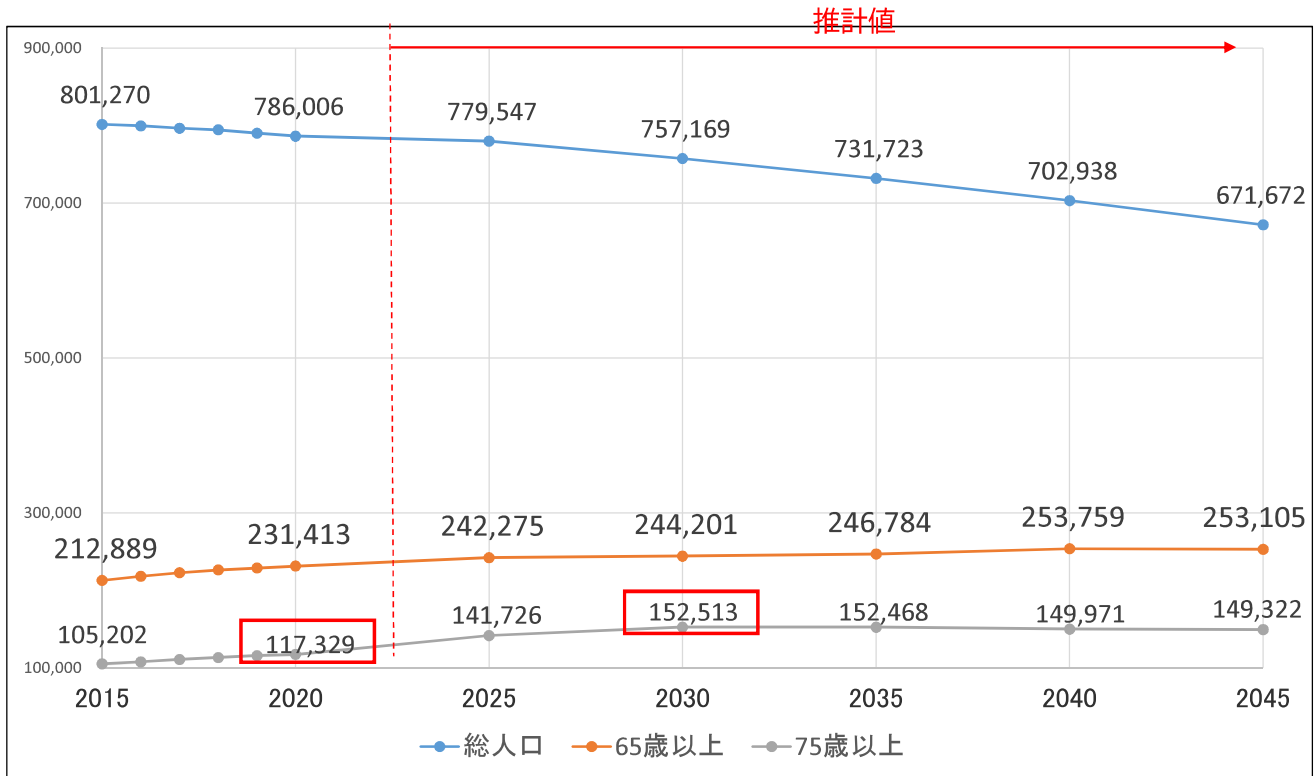
- (1)対象 高齢者人口に対し訪問診療を行う医師数が少ない地域、または医療機関から患者宅への移動に時間を要する地域(P3)などにおいて、モデル事業に協力が得られる医療機関
- (2)内容
 - ・医師が適切と判断した場合において、対面診療と併用する形で訪問診療にオンライン診療を導入する。患者宅を訪問する看護師が、タブレット画面の操作等をサポートする。
 - ・モデル実施の結果から、課題の抽出および有用性の検証を行い、在宅医療体制の強化を目指す。

■対象地域

	※1 人口 (A)	※2 65歳以上 人口 (B)	※3 75歳以上 人口 (C)	高齢化率	※5 面積㎡ (D)	※4 訪問診療実施 医療機関数 (E)	65歳以上人口 千対訪問診療機関数 E / B	75歳以上人口 千対訪問診療機関数 E / C	面積100㎡あたり 医療機関数 E / D
北 区	71,869	23,142	11,547	32.20%	107.72	14	0.60	1.21	13.00
東 区	133,060	39,512	21,172	29.69%	38.62	18	0.46	0.85	46.61
中央区	173,153	47,386	25,699	27.37%	37.75	42	0.89	1.63	111.26
江南区	68,237	20,476	10,503	30.01%	75.42	10	0.49	0.95	13.26
秋葉区	75,210	24,388	12,945	32.43%	95.38	11	0.45	0.85	11.53
南 区	43,150	13,575	6,567	31.46%	100.91	10	0.74	1.52	9.91
西 区	155,001	46,451	25,074	29.97%	94.10	31	0.67	1.24	32.94
西蒲区	54,234	19,058	9,698	35.14%	176.55	15	0.79	1.55	8.50
新潟市	773,914	233,988	123,205	30.23%	726.45	151	0.65	1.23	20.79

※1～※3 住民基本台帳人口(令和4年12月31日現在)
 ※4 国保データベース(KDB)システムを活用した集計データ(R2年度分)【新潟県】
 ※5 市HP

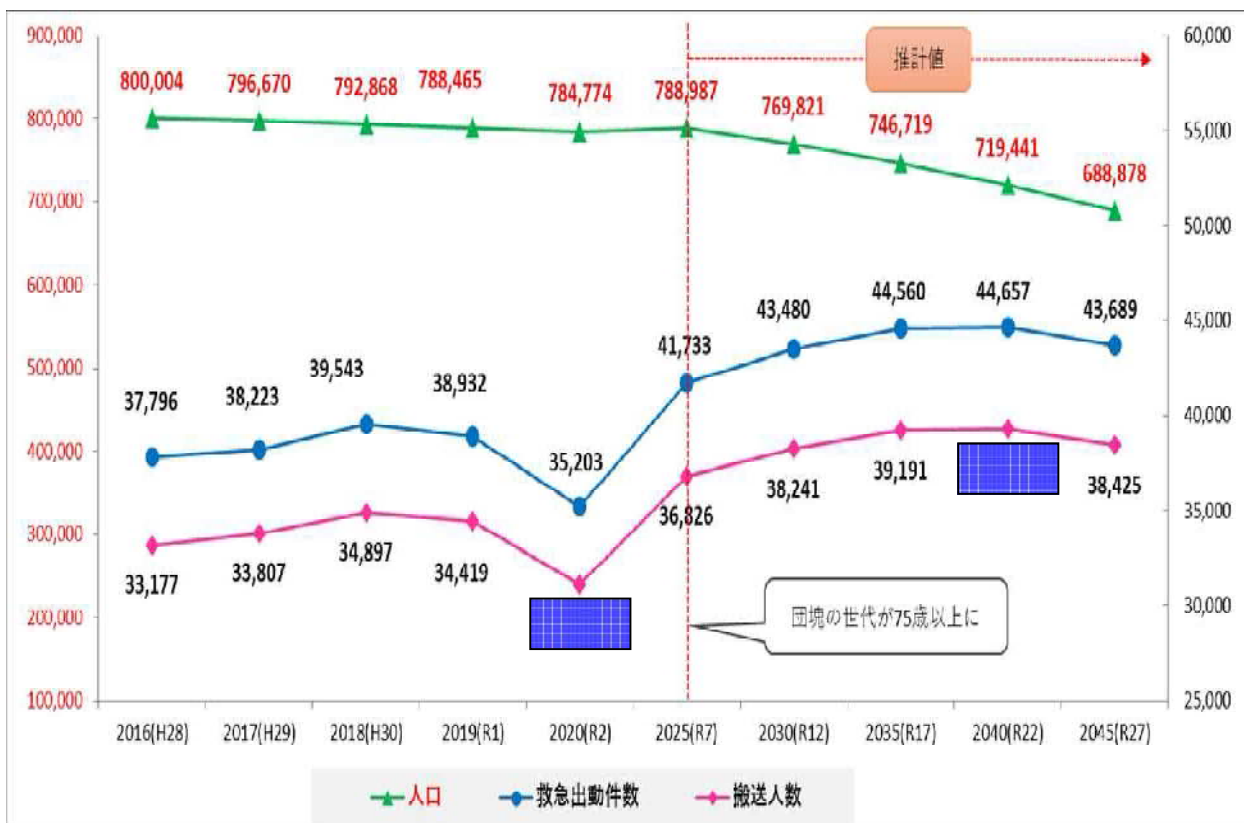
新潟市の将来推計人口



人口は減少するが、65歳以上人口は2040年まで増加する。
 在宅医療需要の多くを占める75歳上人口は2030年にピークを迎え、
 今より約35,000人増加する。

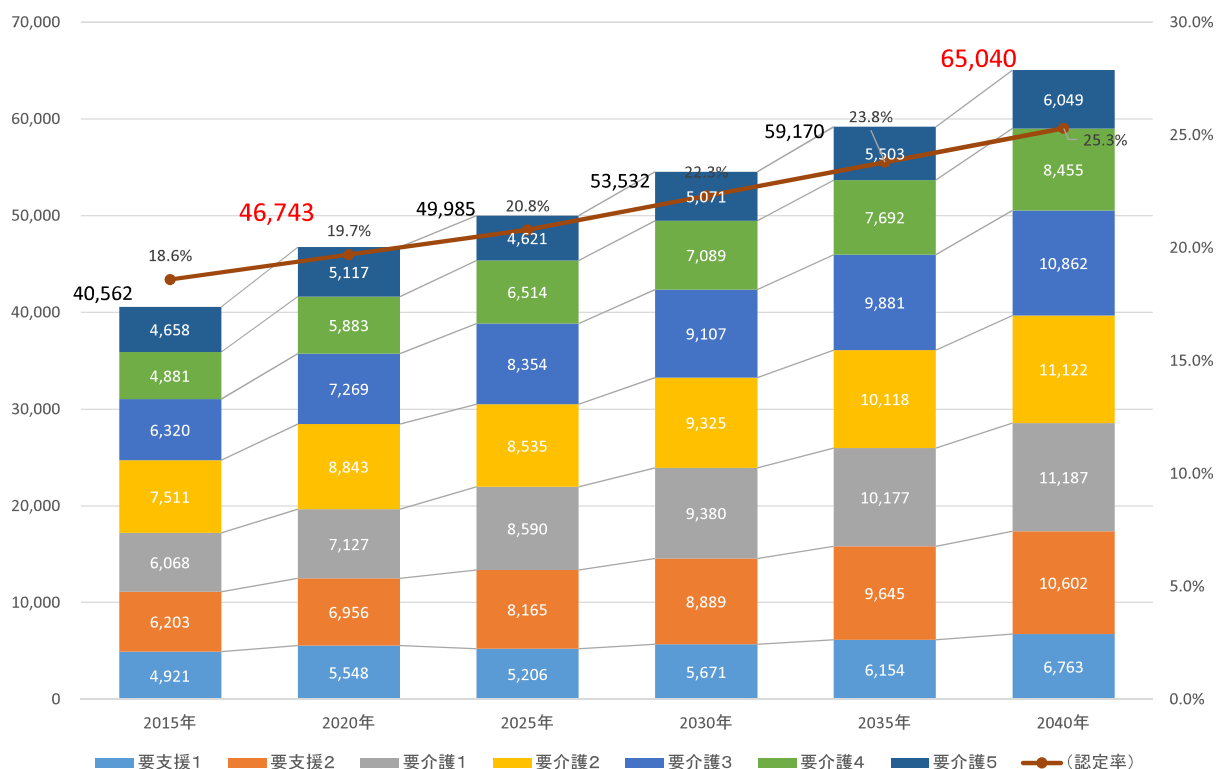
救急需要の将来推計

救急需要は2040年ころまで増加すると予測
令和2年と比較し、約8,000人搬送者が増加し、約39,000人程度になると推計



4

新潟市の介護認定者と認定率の推移



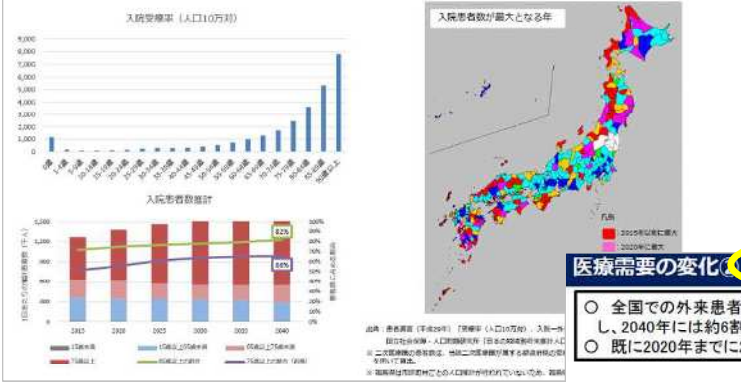
年々、どの認定区分も増加してきた。
今から20年後、認定者はさらに約2万人以上増加する。

5

在宅医療の現状(国)

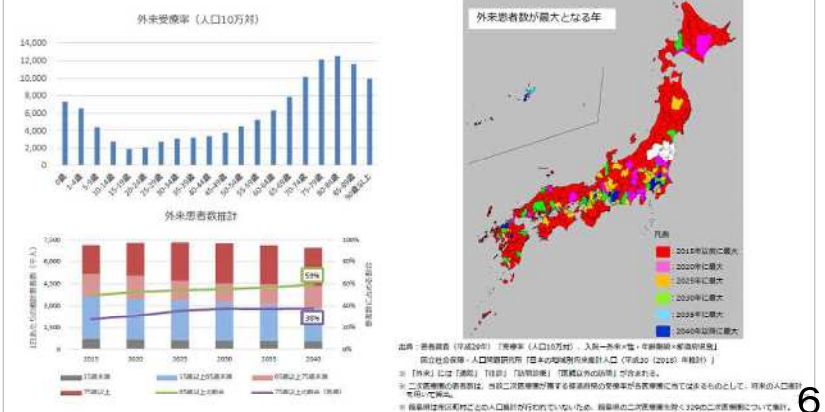
医療需要の変化③ 入院患者数は、全体としては増加傾向にある

- 全国での入院患者数は2040年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約8割となるが見込まれる。
- 2次医療圏によって入院患者数が最大となる年は様々であるが、既に2020年までに90の医療圏が、また2035年までには261の医療圏がピークを迎えることが見込まれる。



医療需要の変化④ 外来患者数は、既に減少局面にある医療圏が多い

- 全国での外来患者数は2025年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約6割となるが見込まれる。
- 既に2020年までに217の医療圏では外来患者数のピークを迎えていると見込まれる。



新潟市におけるピーク

入院患者数…2025年

外来患者数…2015年以前

在宅医療……2045年以降

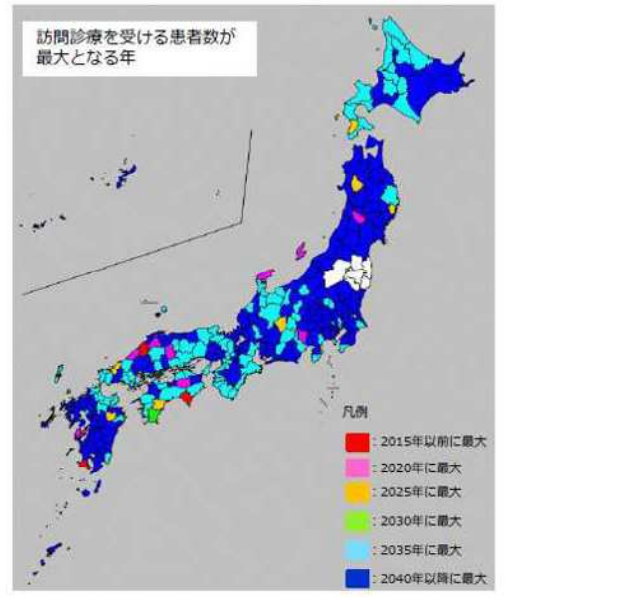
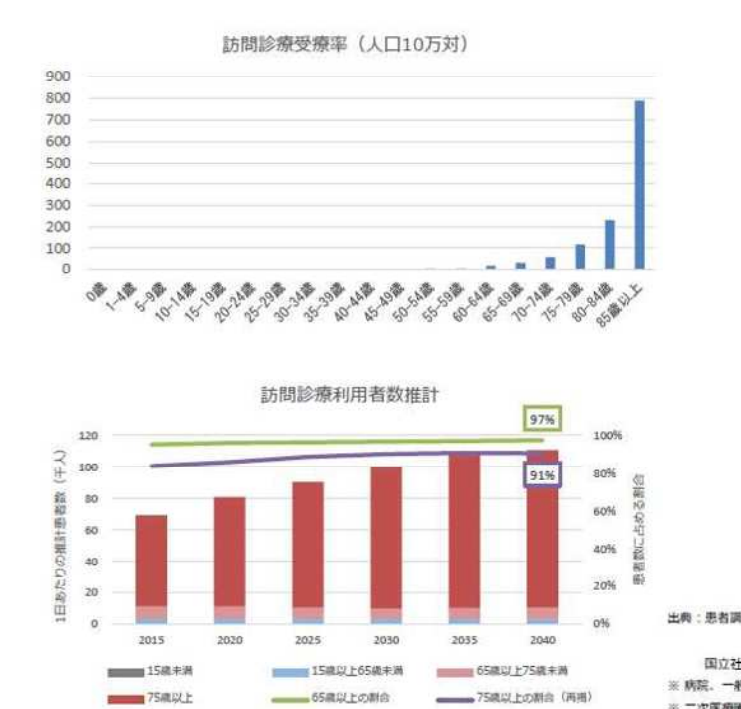
・厚生労働省

在宅医療の現状(国)

医療需要の変化③ 在宅患者数は、多くの地域で今後増加する

第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1
令和4年3月4日

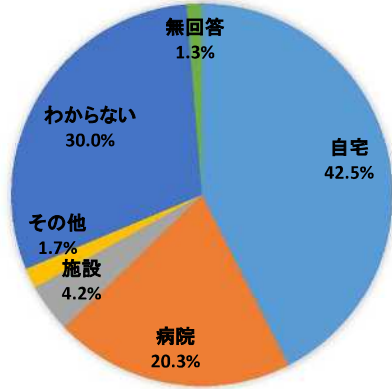
- 全国での在宅患者数は、2040年以降にピークを迎えることが見込まれる。
- 在宅患者数は、多くの地域で今後増加し、2040年以降に203の二次医療圏において在宅患者数のピークを迎えることが見込まれる。



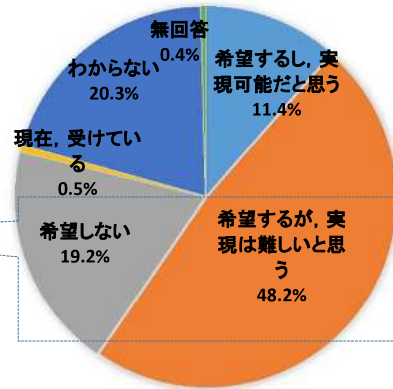
・厚生労働省

Q あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思いますか？

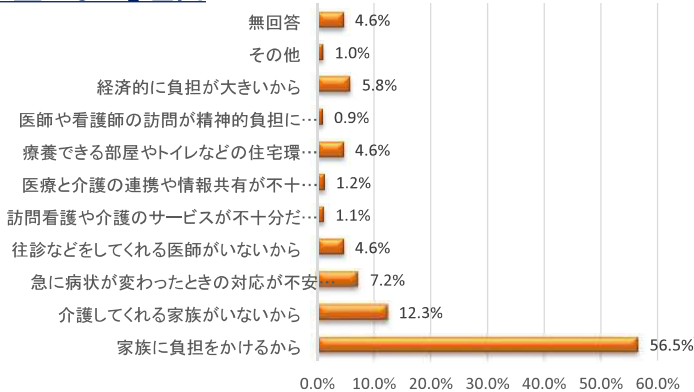
新潟市医療に関する意識調査（R2.7月調査）
（対象者4,000人、回収数1,756人、回収率43.9%）



Qあなたは脳卒中の後遺症やがんなどで長期の治療が必要となった場合、在宅医療を希望しますか。また、実現可能だと思いますか。

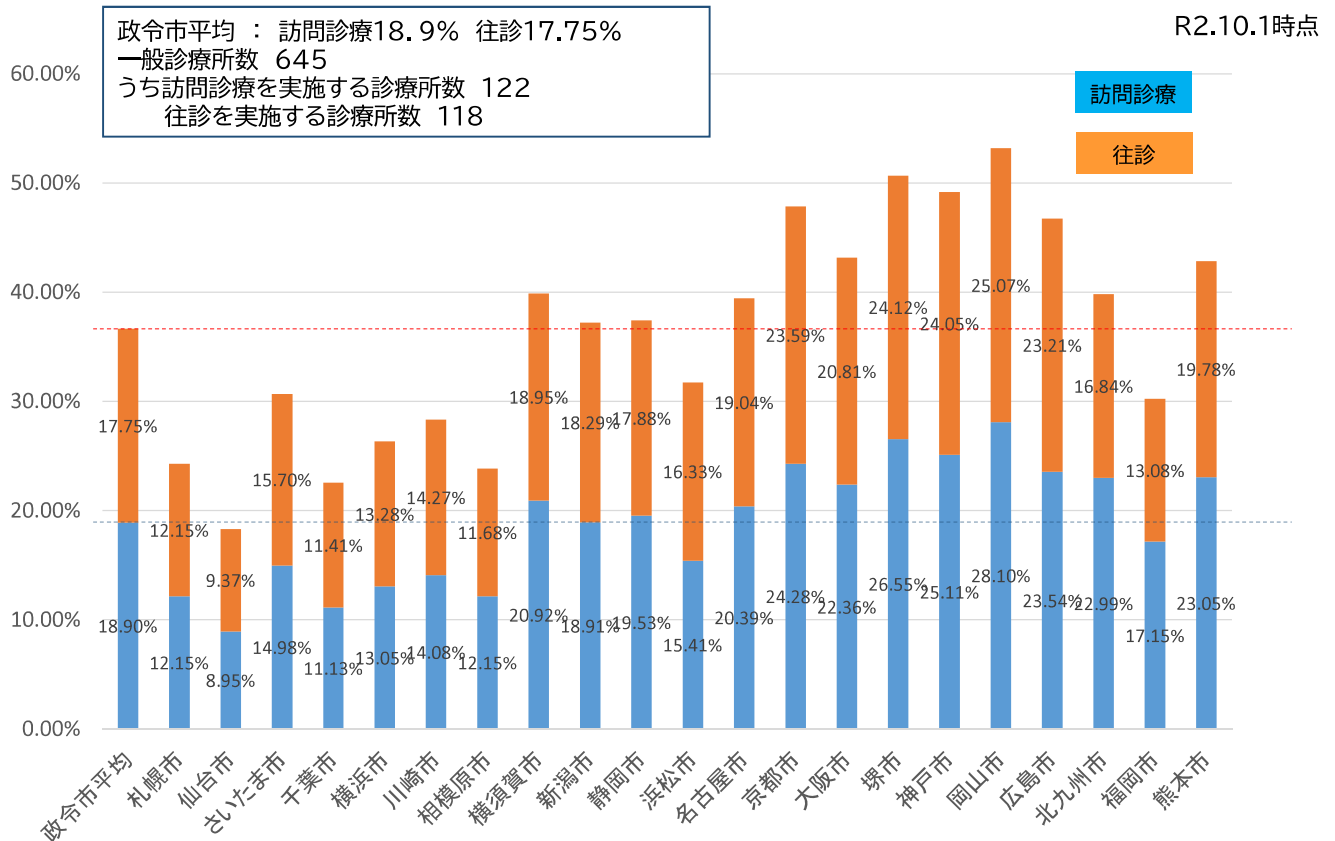


「希望するが、実現は難しいと思う」「希望しない」理由

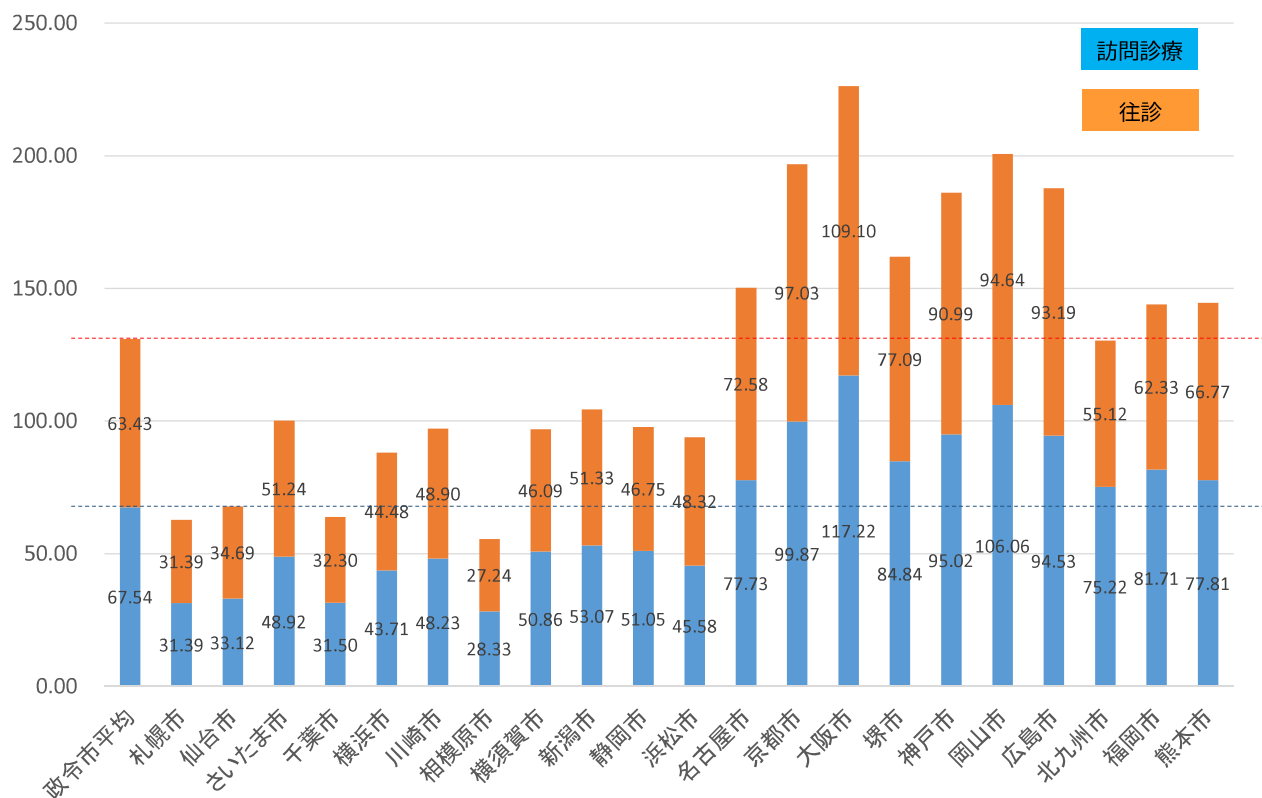


家族に負担をかけるから
在宅医療は難しい

全診療所に占める訪問診療／往診を実施する診療所の割合

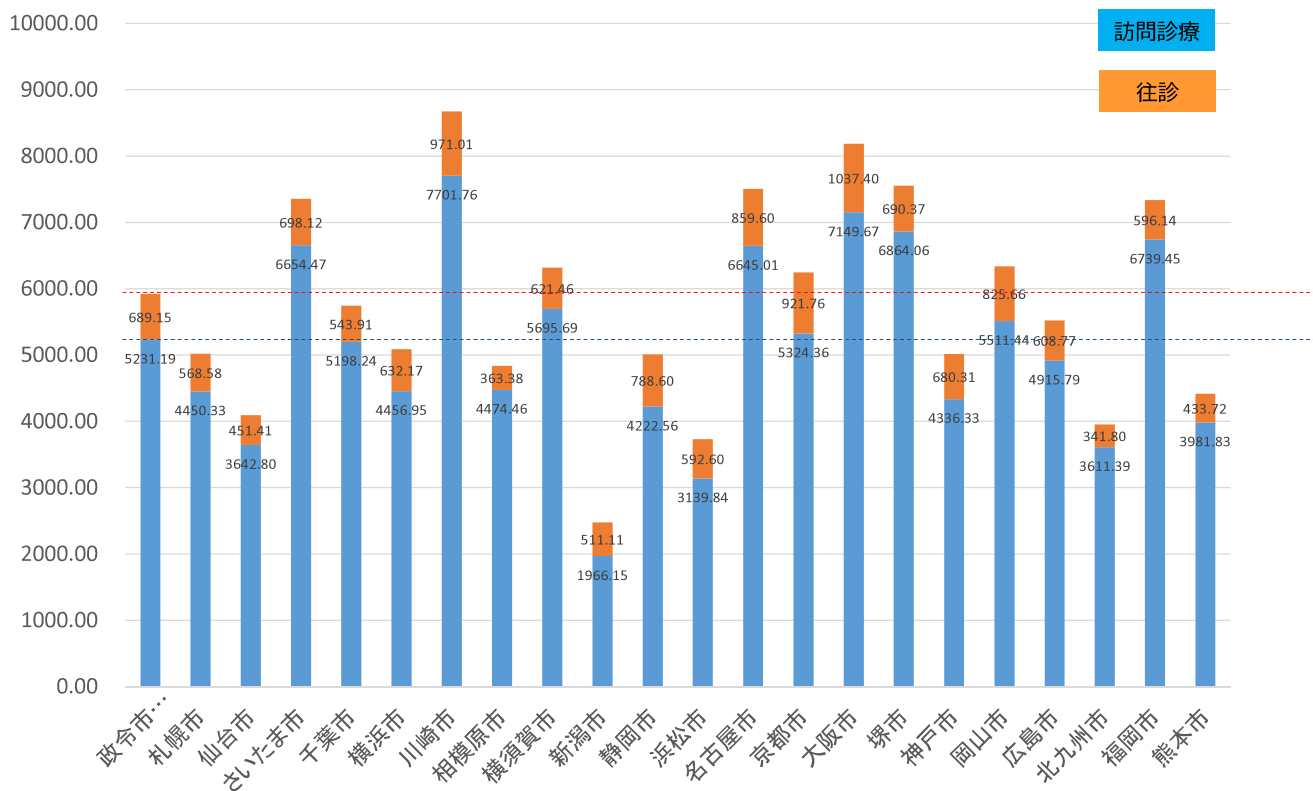


65歳以上人口に対する訪問診療／往診を実施する診療所件数(人口10万対)



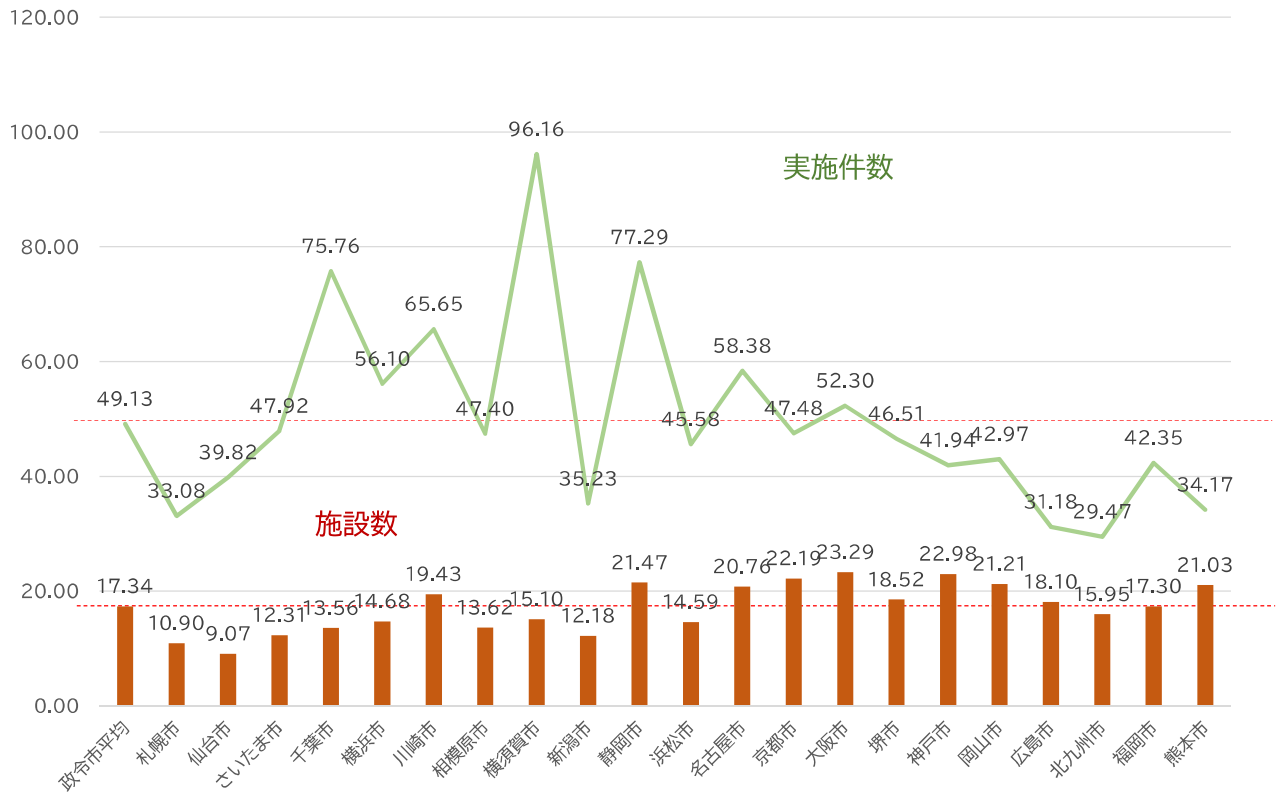
厚労省 在宅医療に係る地域別データ集 (令和4年6月23日更新)

65歳以上人口に対する訪問診療／往診の実施件数(人口10万対)



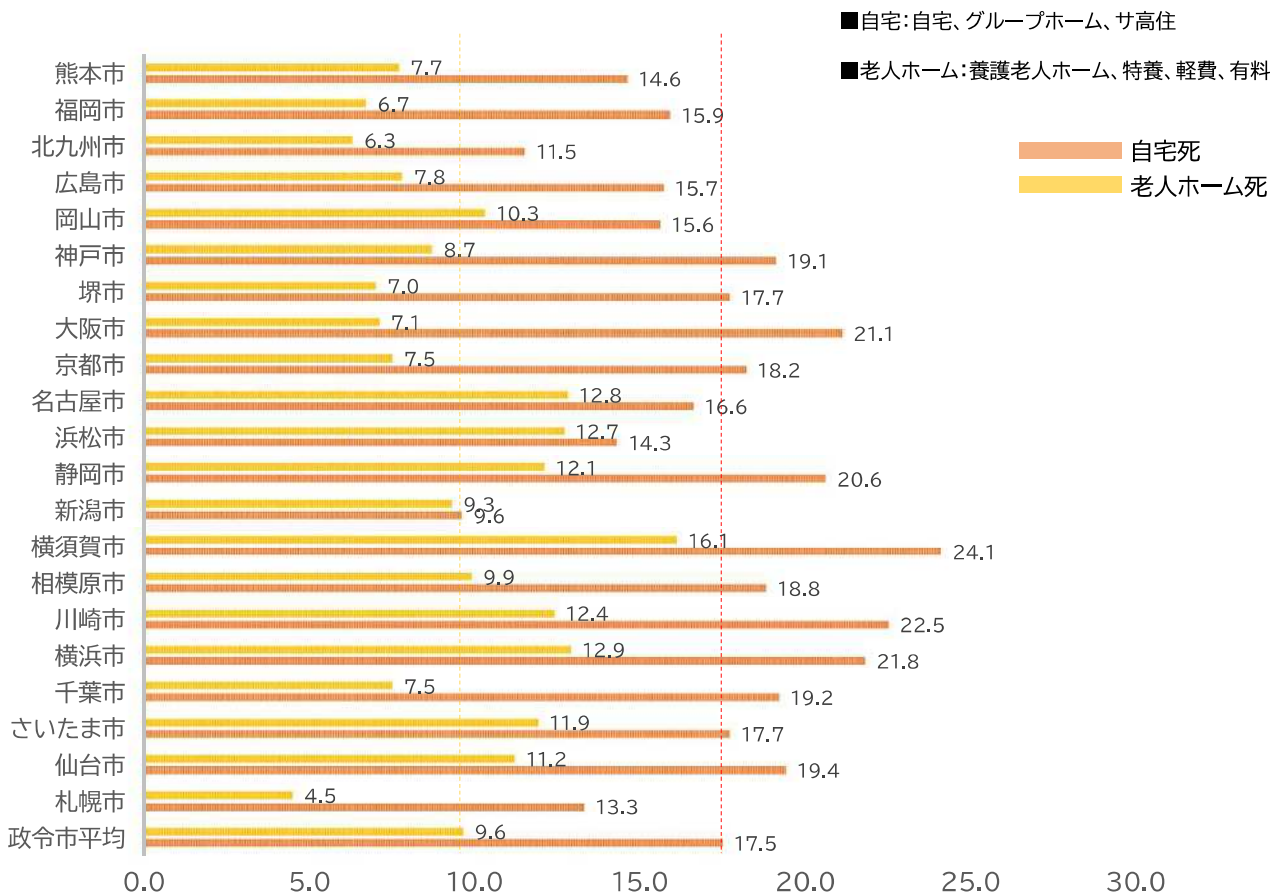
厚労省 在宅医療に係る地域別データ集 (令和4年6月23日更新)

65歳以上人口に対する看取りを実施する医科診療所の施設数・実施件数(人口10万対)

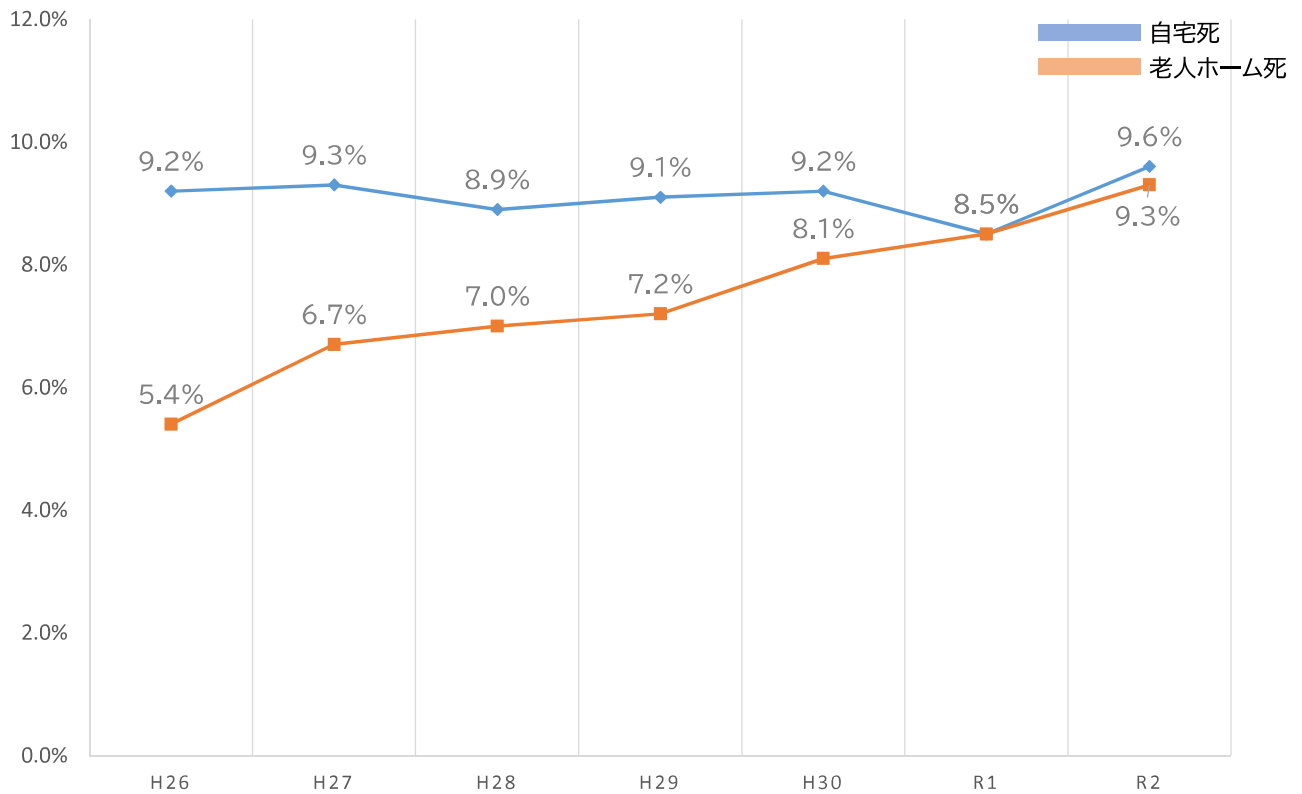


厚労省 在宅医療に係る地域別データ集 (令和4年6月23日更新)

自宅死・老人ホーム死の割合(政令市比較)



厚労省 在宅医療に係る地域別データ集 (令和4年6月23日更新)



現状と課題(まとめ)

- 在宅医療ニーズの大半を占める75歳以上人口は2030年にピークを迎える
- 高齢化に伴い、救急搬送需要は2040年まで増加し続ける
- 高齢者人口に対する訪問診療の実施件数は政令市最下位
- 高齢者人口に対する看取り件数・医療機関数ともに政令市中、下位

目指す方向性

1 持続可能な在宅医療の実現

・効率性を高め、限られた医療資源で持続可能な在宅医療体制の構築を実現する

2 アクセシビリティの向上

・患者が来院する、医師が訪問するといった通常の医療提供が困難な状況を解決する手段として活用できる。
・訪問診療では医師の訪問頻度を高めることは時間的制約を受けるが、オンラインであれば頻度も高めることが可能

3 急変時のかかりつけ医機能の強化

・オンラインで状態を把握し、訪問予定の前倒しや応急処置などの指示が行え、早期対応が可能となる
・終末期の患者においては、訪問に加え、オンライン診療を行うことで、より密度高く経過を観察でき、適切な対応が可能となる。

4 在宅医療(訪問診療)への参入促進

・オンライン診療の活用により、新たに訪問診療に取り組む医療機関が増える。→量・質ともに拡充

16

検討事項およびスケジュール案

R5. 3~5月

- ・対象地域、協力医療機関の選定
- ・協力医療機関との協議
- ・関係機関への事業説明

R5.6月

- ・モデル運用開始

R6.2月

- ・モデル事業検証まとめ、R6年度以降の方針検討

時期未定

- ・オンライン診療に対する実態・意識調査の実施

17